

Veeam Business View VMwareインフラをビジネス的な視点から 表示



Business Viewは、Veeam ONE™の一部として、VMworld、Virtualization Reviewの賞を受賞しました。

「ユーザは、標準の分類に従わずに好みに合わせてVMをグループ化することにより、技術的な視点[だけ]ではなく、ビジネス的な視点からVMを管理することができます。VMは、1つのグループまたはカテゴリだけでなく複数のグループまたはカテゴリに追加することができます。」

VirtualLifestyle.nl
Joep Piscaer氏



Business Viewは、VMwareによりVMware Readyとして認証されています。

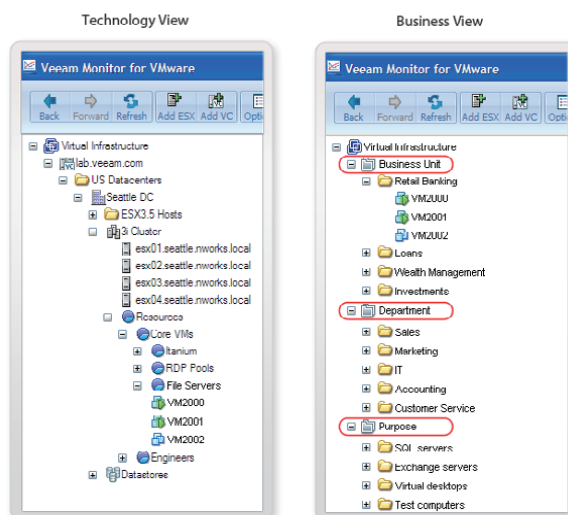
私たちは、VMwareと緊密に協力することにより、当社の製品を最先端のVMware技術に対応させています。Veeamは、VMware Technology Alliance Partnerプログラムにエリート・パートナーとして参加し、VMware Ready Managementプログラムの創設メンバーです。

Veeam Business View™は、ビジネス・ユニット、部門、場所、目的、SLAなどの基準に従ってクラスタ、ホスト、仮想マシン(VM)およびデータストアを分類、グループ化するための自動化された、柔軟かつダイナミックな方法を提供します。Business Viewを使用すると、ビジネス・ニーズや優先順位に従って仮想オブジェクトを表示し、管理することができます。Business Viewは、スタンドアロン・アプリケーションとして動作することも、またVeeam ONE、およびVeeam nworks Management Pack for System Centerなどの他のVeeam製品と組み合わせて使用することもできるため、ユーザのビジネスに合わせて仮想環境を管理することができます。

VMware vCenter Serverが提供するVMwareインフラの管理(技術的な)ビューには、ある程度の制限があります。VMフォルダを使用すれば、ビジネス的な基準をベースにVMを手動でグループ化することはできますが、このようなフォルダは毎日保守しなければならないため、その作業はすぐに面倒なものとなります。さらに、フォルダは、1つの分類ディメンションに限定されます。

ダイナミックなカテゴリズ

Veeam Business Viewを使用すると、VM、ホスト、クラスタ、データストアを、ビジネス・ユニット、部門、目的などの異なるカテゴリにグループ化することができます。Business Viewは、ユーザの組織固有の要件を満たすカテゴリ別のオブジェクトのダイナミックなグループ化にも柔軟に対応することができます。



Veeam Business Viewでは、お客様のビジネス組織に合わせて仮想環境を表示します。

Business Viewは、VMwareネイティブのカスタム属性を使用して、オブジェクトのカテゴリズを行ないます。一度に1つまたは複数のオブジェクトの属性を手動で編集することができます。また、あらかじめ定義されたルールに従って自動的に更新することもできます。例えば、「VMがその名前前で小売りされている場合、そのVMをRetail Bankingカテゴリに追加する」という自動化ルールを定義することができます。

詳細については、www.veeam.com/jp をご覧ください。

Veeam ONE

for VMware management

Veeam Business Viewは、VMware環境のパフォーマンス、構成および使用状況を最適化するための総合的なソリューションVeeam ONEの一部です。

The complete picture

包括的なビューを表示するVeeam ONEは、最も緊急の管理ニーズに対応するために、以下の機能を提供します。

- ・ モニタリング
- ・ キャパシティ・プランニング
- ・ 変更管理
- ・ レポート作成およびチャージバック

複数のベンダーのツールを組み合わせたり、保守したりする必要はありません。また、「補足する」ためにスクリプトに依存する必要もありません。VMwareの管理とデータ保護のNo. 1として認められているVeeamのONEソリューションを使用すれば、ますます複雑になっていくミッションクリティカルなVMware環境を継続的に管理することができます。

総合的な仮想化

管理ソリューションVeeam ONEは、Veeam Monitor™、Veeam Reporter™、Veeam Business View™で構成されます。

サポートされるプラットフォーム

- ・ VMware vSphere 5.0
- ・ VMware vSphere 4.x
- ・ VMware Infrastructure 3 (VI3)

climb Inc. 株式会社クライム
Growing to Meet Your Needs

〒103-0014

東京都中央区日本橋蛸殻町1-25-4

日本橋栄ビル4F

Tel: 03-3660-9336 Fax: 03-3660-9337

E-mail: soft@climb.co.jp

http://www.climb.co.jp

ビジネス的な視点からの仮想インフラの管理

Business Viewでは、ビジネス上の基準をベースに仮想資産をカテゴライズするため、リソース割り当ての優先順位の設定、チャージバックの実行、およびVMスプロールの制御が容易になります。

ビジネス全体でのリソースの割り当てと使用の優先順位の設定

Business View独自のダッシュボード・ビューを使用すると、ビジネス・ユニット、部門および目的別だけでなく、他のビジネス的な基準に基づいてVMおよびvCPUの数、メモリおよびストレージ容量をひと目で確認することができます。

VMスプロールの制御

Business Viewは、データセンター内のすべてのVMを割り当てることにより、VMスプロールを制御するのに役立ちます。割り当てられていないVMとそれらのVMが使用するリソースは、webベースのダッシュボードに即座に表示されます。



Business View 2.0では、ダッシュボードが強化され、VMwareインフラ内のオブジェクトのカテゴリ化状態に関する重要な情報を表示します。

チャージバック・モデルの定義

リソースの利用状況および割り当てに関して包括的な情報を提供するVeeam Reporter™と組み合わせてBusiness Viewを使用すると、チャージバック・モデルを希望に合わせて柔軟に定義することができます。レポートを作成する場合、または他のチャージバック、インベントリまたは課金システムに統合する場合、グループ情報をMicrosoft Excelのスプレッドシートに簡単にエクスポートすることができます。

“Set & forget” の自動カテゴリ化とワークフロー

オブジェクトを複数のフォルダに手動で繰り返しカテゴリ化する必要はなくなります。VMware vSphere環境内のオブジェクトをカテゴリ化するためのルールやポリシーを定義するだけで、オブジェクトの属性の検出や監視からオブジェクトを割り当てるグループの作成に至るまで、後はBusiness Viewに任せることができます。Business Viewは、グループを常時最新の状態に維持するため、変化し続ける仮想環境を正確に把握することができます。

既存のカテゴリ化・プロセスとの統合

ビジネス・ユニット、部門、目的またはSLA別にオブジェクトをグループ化するためにカスタム属性をすでに使用していますか。Business Viewは、すでにあるものを自動化し、拡張することができます。すべてのものを最初から作成し直す必要はありません。

オープン・アーキテクチャ

Business Viewは、vCenter Serverのデータと統合されるため、the VMware vSphere Clientや他のサードパーティ製品でBusiness Viewの利点を完全に生かすことができます。複雑さを軽減するために、Business Viewは、組み込みwebサービスとして提供されるため、どんなアプリケーションでも、vCenter Serverに余分な負荷をかけることなく、Business Viewサーバから直接、特定のカテゴリの内容を即座に照会することができます。

詳細については、www.veeam.com/jp をご覧ください。

VEEAM